

令和8年度 学力向上アクションプラン

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	0	0	0	令和8年度の目標	0	0	-8	-10	0	-7	-5	-6
令和7年度の結果	-8	-12	-20	令和7年度の結果	-10.7	-12.5	-3.3	-9.6	-6.3	-8.4	-6.7	-9.7
令和6年度の結果	-10	-11	-21	令和6年度の結果	-2.6	-6.4	-5.1	-7.5	-5.7	-10	-7.1	-11.2
令和5年度の結果	0	-6	-6	令和5年度の結果								
年度	令和7年度			令和8年度								
内容	成果と課題			目標		目標達成に向けた取組						
学校全体	(成果) ・「算数の勉強は好き」と肯定的な回答した児童が、全国平均を上回っている。引き続き、「算数を好き」と思える児童が増えるよう、「分かった・できた・楽しい授業」を展開する。 (課題) ・国語・算数ともに全国平均との差が大きく、応用・記述・「読む・書く」「思考・判断・表現」で差が出ている学年が多い。			①基礎計算力の底上げ ②記述式の正答率向上と無回答の低減		①・放課後補習教室で九九の復習を行い定着を試みる。・月に2回の朝学習「算数マスター」で、東京ベーシックを基本とした全学年の復習に取り組み、学年をまたぐつまずきの解消を狙う。また、授業内でも既習事項の確認や補充を行う。・スタディウィークでは、全学年の内容をドリルパークを使って取り組む。 ②・全学年で対話を大切にした授業展開を行う。・4年生以上では「よむYOMUワークシート」を使用し、記述力や読む力を伸ばす。						
第1学年	・学校でも家庭でも学習するという生活習慣や態度が定着してきている。 ・ひらがなや漢字などの文字の習得や、10の構成(加減含む)理解に差が大きい。			・ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きの定着。 ・10までのたしざん、ひきざんを確実に習得し、くり上がりのたし算やくり下がりがひき算に自信をもって取り組むことができるようにする。 ・「主語+述語」の短い文をかけるようにする。		・宿題の徹底と、隙間時間にできるプリントを用意し、繰り返し練習することができるような環境をつくる。 ・10までのたし算・ひき算は朝学習で繰り返し取り組む。くり上がりのたし算、ひき算は、やり方を説明できるように手順を示し、自分で言ったり、ペアでやり方を説明し合ったりする。 ・「だれが」「どうした」を書き、そこに「いつ・どこで」を足していく。それと共に、事実と気持ちをセットに書けるようにする。						
第2学年	・算数では「数と計算」の領域において、個人差が大きい。掛け算の意味理解の時点で定着していない児童がいた。また、くり上がりやくり下がりのある計算では、時間が経つと忘れてしまう児童も少なくなかった。 ・漢字の定着にも個人差があった。			・繰り上がり、繰り下がり、九九を確実にする。 ・配当漢字の読み書きを定着させる。 ・理由とともに3文から5文程度の短い文章を書けるようにする。		・繰り上がり繰り下がりの計算は手順を明確にし、朝学習で繰り返し取り組む。 ・九九は段階指導(意味→暗唱→活用)で学習した後、毎日短時間繰り返し反復練習に取り組む。「九九大作戦」でかけ算九九を確実に暗唱できるようにする。 ・宿題の回収を徹底する。						
第3学年	・算数では「数と計算」の領域において、全国平均との差が大きい。 ・国語では「言語・情報・言語文化」の領域において全国平均との差が大きい。			・3位数・3位数の計算、2位数÷2位数の計算を確実にする。 ・国語辞典の使い方、反対の意味の言葉、漢字の書きについて繰り返し学習し、定着させる。		・「算数マスター」や朝学習を通して、10の分解や九九の定着を目指す。 ・宿題の漢字練習の作文で主語・述語のそろった文を書かせることで、文の構造を理解させる。 ・図書の時間を生かして、文章を読むことへの苦手意識を緩和させる。						
第4学年	・算数では「数と計算」の領域において、全国平均との差が大きい。 ・国語において、全国平均との差が2.1ポイント縮まったが、「言語・情報・言語文化」の領域において全国平均との差がまだ大きい。			・数量関係を式に表し答えを求められるようにする。3位数÷1位数では無回答率を減らす。 ・漢字の書きについて繰り返し学習し、定着させる。また、様々な慣用句に触れ、意味を知り使えるようにする。		・「算数マスター」で、東京ベーシックを基本とした前学年の復習に取り組み、「数」、「計算」のつまずきの解消を目指す。 ・いきなり数字の式を作るのではなく、「全体の数÷人数＝1人分」のように言葉のモデルをワンステップ狭み、正しい立式ができるようにする。 ・文章を読むと同時に、テープ図・関係図等の簡単な図を描く習慣をつけ、問われていることを正確に読み取れるようにする。 ・単語だけでなく「○○を送る」のように一文の中で書かせることで、送りがない意味の理解も同時に定着させる。						
第5学年	・算数において全国平均との差が1.6ポイント縮まったが、「数と計算」の領域において、全国平均との差が大きい。 ・国語では「書くこと」に関して無解答率がどれも10%以上と高く、苦手意識をもつ児童が多いことが分かる。			・分数の加減計算を確実にする。 ・文章構成の工夫について理解を深める。		・「算数マスター」で、東京ベーシックを基本とした前学年の復習に取り組む。 ・分数の加減の計算については、計算の手順やままりを明確にし、朝学習や算数の帯学習などで繰り返し取り組む。 ・文章題や複合的な問題について、「具体(手で触れる)→図解(絵や図で表す)→抽象(立式する)」という段階を踏み、問題場面を理解させるようにする。 ・自分の考えが伝わる文章構成のモデルを示すことや、朝学習、「よむYOMUワークシート」や国語の時間を通して「読む・書く活動」を繰り返し行うことで「書くこと」への抵抗感を無くしていく。						
第6学年	・国語算数ともに若干の改善が見られる(国語:+0.4ポイント 算数:+1.5ポイント)。特に国語では無解答率が低いことが結果に結びついていることが考えられる。 ・算数では、「数と計算」の領域において、全国平均との差が大きい。			・分数の乗除の計算を確実にする。 ・文や図をもとに意見を過不足なく書けるようにする。		・分数の乗除の計算は、朝学習「算数マスター」で繰り返し取り組み、定着を図る。 ・国語では、「よむYOMUワークシート」を定期的に活用し、記述力や読む力を伸ばしていく。また、国語の書く単元では、意見を書くことができるよう、メモの構成部分から丁寧に学習させていく。						